

ルトンESA長官と谷川科学技術庁長官との会談について

平成4年3月11日

科学技術庁

1. 欧州13カ国の主要な宇宙開発活動を担っている国際機関である欧州宇宙機関(ESA)のジャン・マリー・ルトン長官は、本日(11日)、谷川科学技術庁長官(宇宙開発委員会委員長)を訪れて会談を行った。
2. 両者は、国際宇宙ステーション計画、地球観測、追跡管制並びに情報及び人材の交流の分野におけるこれまでの協力が、相互に有益なものであったことを評価した。更に、今後一層協力関係を強めていくことの潜在的有益性を強く認識した。
3. ルトン長官は、以下のいくつかの分野が、ESAと日本との間の協力拡大の可能性のある分野として検討されるべきであると提案した。
 - ・地球及び地球環境の観測
 - ・衛星によるデータの中継、特に欧州及び日本のデータ中継衛星計画
 - ・国際宇宙ステーション計画における準備フライト及びJEMとAPMの軌道上相互利用
 - ・日本及びESAのスペースプレーン(HOPE/Hermes)のためのデータの交換と基礎的な研究における協力
 - ・その他 (例:多地域宇宙通信システム、次世代静止気象衛星)
4. 谷川科学技術庁長官は、提案された分野については、専門家の間で検討するとともに、欧州で本年6月開催予定の日・ESA行政官会議の際に検討することに、基本的に合意した。
5. 谷川科学技術庁長官は、本年が国際宇宙年であることに鑑み、平和目的の宇宙開発利用の分野で国際協力を一層推進することが必要である旨強調した。
6. ルトン長官は、今回の日本訪問は、ESAとして、宇宙の平和利用の協力を21世紀に向けて全世界的に推進していくという欧州の意志を強く表すものであると述べた。